

東大現代文完全解説

Anchor

平成27年度 第四問

収録

ver. 1.4



初めに	3
現代文とは何か？	3
Anchorとは何か？	3
この教材自体を疑うこと	4
議論すること	4
Anchorに関するお問い合わせ	4
平成27年度	6
第4問	7
解答例	7
本文解説	7
設問解説	9
設問（一）	10
設問（二）	14
設問（三）	18
設問（四）	23
引用文献・著作権表示	29

初めに

現代文とは何か？

受験科目としての現代文とは、与えられた文章（問題文）に基づいて、論理的に読解し、適切な表現を与える能力を測る科目である。実は東京大学もこの定義と同様の方針を表明している¹。この意味で、現代文という受験科目は非常に特殊なゲームであり、一般的な意味における「文章を読むこと」や「文章を書くこと」とは性質が異なるものだと考えて欲しい。それゆえ、ただ読書してみたり、ただ文章を書いてみても、現代文の点数はなかなか上がらない（もちろん、やらないよりはましであるが）。

この「与えられた文章（問題文）に基づいて、論理的な読解をし、適切な表現を与える」という定義の要点は二つある。

一つは、必ず問題文に根拠を求めなければいけないということだ。言い換えれば、専門知識を根拠とした読解をしたり、自分独自の主義主張を展開したりしても、それは全く評価されないということである。この点で、一般的な文章に対する論評とは異なる。また、筆者が何を伝えたかったかに縛られる必要は無いということでもある。筆者が伝えようとはしていなかったが問題文に表現されてしまった事柄は読解する必要があるが、逆に筆者が伝えたかったが問題文で表現されていない事柄は無理に汲み取る必要は無い。私たちが対峙すべきはあくまで問題文であり、筆者ではない。

もう一つの要点は、論理的でなければいけないということだ。裏を返せば、現代文の正しい解答は、論理的に考えるだけで必ず辿り着けるとということだ。そこに閃きや専門知識は全く必要無い。問題文に向き合い、丁寧に論理を重ねていけば必ず攻略できるはずだ。

Anchorとは何か？

この教材（Anchor）は東京大学の現代文の入学試験について解説しその解答例を提示しているものである。Anchorは大きく分けると、＜虎の巻＞と＜各年度問題解説＞から成り立っている。＜虎の巻＞では、各年度の問題に共通して通用する方法論について説明している。＜各年度問題解説＞では、各年度の問題について個別に解説し解答例を提示している。もちろん、可能な限り＜各年度問題解説＞のみを読んでも解説が成立するようには努めてはいるが、できるだけ＜虎の巻＞を参照してから、そして参照しながら、＜各年度問題解説＞を読むようにしてほしい。当た

¹ このことについてはこの章の最後にコラムとして記述している。

り前だが、実際に受験会場で対峙するのは、過去問ではなく未知の問題である。過去問を個別に対策しても、それは入学試験の対策をしたことには全くなならない。そして何より、将来の糧ともならない。過去問から何を学び、それを自分の力とするかが重要である。

この教材自体を疑うこと

多少逆説的に聞こえるかもしれないが、この教材自体を疑うことも非常に大事なことである。私たちはこの教材で解説を行い解答例を提示するが、私たちが言うことが全て絶対的に正しいわけではない。文章を読み解く方向性は必ずしも一つに収束しないし、また、同じ方向性においても、より緻密で精緻な読解・解答というものは常に存在し続ける。よって、この教材から学びつつ、同時にいつもこの教材を上回ることを目指すことが最も大切である。繰り返すが、実際に受験会場で対峙するのは、過去問ではなく未知の問題である。受験会場には普段教えてくれている先生はいないし、このAnchorも無い。自分自身の力でより良い解答を模索する気概と能力を身につけてくれたら嬉しい。

議論すること

受験問題自体、そしてその教材の内容について議論することもとても大事だ。一人では見えなかったことも、他の人と議論する中で見えてくるものである。また、そもそも、先ほども述べた通り、読解の方向性は一様では無いのだから、様々な読みを認識すること自体が貴重な財産となるのである。実際、Anchorの執筆者も複数人おり、それぞれがつくった答案を突き合わせて、相互に批評しあいながらよいよい答案を練り上げてきた。

勿論、このAnchorを作った私たちに対する議論も歓迎である。可能な限り対応するので、いつでも気軽に議論を申し込んで欲しい。

ただし、読みには妥当性が必要であるということは注意として付け加えておきたい。読解の方向性は多様であり、また様々な人との議論が大切であるとは言っても、妥当性の低い読みというのはある。やはり、読み解く文章が指定されている以上、その文章の中に根拠があることが大事である。また、文章内を根拠にしたとしても、論理性を欠いてもいけない。「現代文」という科目はそういうゲームなのである。読解は多様ではあるが、何でもありでは無い。多様性を認めつつ、妥当性を見極める力を身につけることが大切である。

Anchorに関するお問い合わせ

Anchorに関するお問い合わせは、Webサイト、Twitter、LINE@にてお受けしております。

- ▶ Schip 公式Webサイト <https://schip.me>
- ▶ Twitter @schip__ https://twitter.com/schip__
- ▶ LINE@は以下のQRコードより友達登録をお願いします。



コラム：東京大学の考える「現代文」

東京大学は「高等学校段階までの学習で身につけてほしいこと」という文章をWebページ上に記載しており、これを読むことで、東京大学がどんな能力を図りたいかを推し量ることができる。そこでは「文章を筋道立てて読みとる読解力」「それを正しく明確な日本語によって表す表現力」の二つが中核として記述されている。このように、東京大学の示す方針は、「与えられた文章（問題文）に基づいて、論理的な読解をし、適切な表現を与える」というAnchorにおける現代文の定義と相違ない。少し長くなるが、以下に全文を引用する。

国語の入試問題は、「自国の歴史や文化に深い理解を示す」人材の育成という東京大学の教育理念に基づいて、高等学校までに培った国語の総合力を測ることを目的とし、文系・理系を問わず、現代文・古文・漢文という三分野すべてから出題されます。本学の教育・研究のすべてにわたって国語の能力が基盤となっていることは言をまちませんが、特に古典を必須としているのは、日本文化の歴史的形成への自覚を促し、真の教養を涵養するには古典が不可欠であると考えからです。このような観点から、問題文は論旨明快でありつつ、滋味深い、品格ある文章を厳選しています。学生が高等学校までの学習によって習得したものを基盤にしつつ、それに留まらず、自己の体験総体を媒介に考えることを求めているからです。本学に入学しようとする皆さんは、総合的な国語力を養うよう心掛けてください。

総合的な国語力の中心となるのは

- 1) 文章を筋道立てて読みとる読解力
- 2) それを正しく明確な日本語によって表す表現力

の二つであり、出題に当たっては、基本的な知識の習得は要求するものの、それは高等学校までの教育課程の範囲を出るものではなく、むしろ、それ以上に、自らの体験に基づいた主体的な国語の運用能力を重視します。

そのため、設問への解答は原則としてすべて記述式となっています。さらに、ある程度の長文によってまとめる能力を問う問題を必ず設けているのも、選択式の設問では測りがたい、国語による豊かな表現力を備えていることを期待するためです。

(引用元：http://www.u-tokyo.ac.jp/stu03/e01_01_18_j.html)

(アクセス：2016年12月25日)

平成27年度

第4問

藤原新也「ある風来猫の短い生涯について」：難易度B

解答例

設問（一）	筆者は、南房総の猫の決然とした親離れの姿から、連綿と続く野生の牢固な営みを感じ取り、安心と感銘を覚えたということ。（57字）
設問（二）	野生の掟によれば死ぬ宿命にあった病猫を、間接的な罪悪感から思わず救命してしまい、野良猫の世界に人為を持ち込んでしまったということ。（65字）
設問（三）	病猫は自発的で一方向的な奉仕の対象ではなく、むしろ慈悲心を引き出し充足感を与え返す存在であったことを筆者は勘付き始めたということ。（65字）
設問（四）	誰もが不快に思う臭気であっても、筆者にとっては病猫との代替不可能な関係の象徴であるので、その不在には思わず愛惜が喚起されるということ。（67字）

本文解説

エッセイだ。同じ体験について述べてはいるが、前半と後半でテーマが少し異なることに混乱しないようにしたい。まず、＜エッセイの本文読解の虎の巻＞通りに、表の形で本文の記述を整

理する。こうした整理を踏まえれば、設問は素直に考えれば良い。そこまで難しい問題ではないだろう。

前半パート 問(一)(二)

テーマ	体験・観察	解釈
自然と人為	<p><1>南房総の多産猫の子猫たちの自立</p> <p>「ある一定の時期が来ると、とつぜん親が子供が甘えるのを拒否しはじめる。[中略]徐々に子は親のもとを離れなければならないのだという自覚が生まれる。」</p> <p>「(子猫は)いざ自立を決心したとき、その表情が一変するのに驚かされる。徐々にではなくある日急変するのである。目つきも姿勢も急に大人っぽくなって、その視線が内にでなく外に向けられはじめる。それから何日かのちのこと、不意に姿を消している。帰ってくることはまずない。」</p>	<p>「こころ寂しい反面なにか悠久の安堵感のようなものに打たれる。見事な親離れだと思う、親も見事であれば子も見事である。」</p>
	<p><2>餌付いた野良猫</p> <p>「その猫が餌づいてしまったのである。しかしその猫も野生の血が居残っていると見え、ある年の春不意に姿を消した。それ以降私は野良猫には餌をやらないことにしている。」</p>	<p>「これらの猫は都会の猫と違って自然に一体化したかたちで彼らの世界で自立していると思っているからだ。自分の気まぐれと楽しみで猫の世界に介入することによってそのような猫の生き方のシステムが変形していくことがあるとすれば、それは避けなければならない」</p>

本文の前半パートは、筆者が「猫の生き方のシステム」を体感した話が展開される。「猫の生き方のシステム」について述べることで、自然と人為の対比を描いていると言って良いだろう。長年変わらずあり続ける猫の子育ての様子から、猫の生き方のシステムを垣間見る。また、一度餌付けしてしまった猫が野生に戻っていく姿を見て、そのシステムは人為を持ち込むべきではないと感じるのだ。自然と人為の対比というのは、現代文の問題の中でもよくある対比だ。後半では、そのような猫のシステムと筆者の関わり方について、話が展開されていくことになる。

後半パート 問(三)(四)

テーマ	体験・観察	解釈
利他	<p>< 1 > 野良の病猫</p> <p>「この子猫はあらゆる病気を抱え込んでいるように見えた。しかしそれも宿命であり、野生の淀にしたがってこの猫は短い寿命を与えられているわけだから、私がそれに手を貸すことはよくない」</p> <p>「間接的にその苦しみを私が与えたような気持ちに陥った。そのような経緯で私はつい猫を家に入れてしまったのである。」</p> <p>「そのまま家に居着いてしまった。立ち直ったときにまた外に出せばよかったのだが、このそんなに寿命の長そうではない病猫について同情してしまったのが運のつきである。」</p>	<p>「その感心の中にはときに私のボランティア精神に対する共感の意味も含まれているわけだが、私はそういうことではない、と薄々感じはじめていた。」</p> <p>「その他の動物から、そしてあるいは植物にいたるまで、およそ生き物というものはエゴイズムに支えられて生きながらえていると言っても過言ではない。無償の愛、という美しい言葉があるが、それは言葉のみの抽象的な概念であって、そこに生き物の関係性が存在するかぎり完璧な無償というものはなかなか存在しがたい。」</p>
	<p>< 2 > 敬虔なクリスチャン</p> <p>「以前アメリカのポトマック川で航空機が墜落したとき、ヘリコプターから降ろされた命綱をつぎつぎと他の人に渡して自分は溺死してしまったという人がいた。」</p>	<p>「敬虔なクリスチャンである彼が、彼が習ってきた教義の中に濃厚にある他者のために犠牲心を払うということによる利にまったく触れなかったとは考えにくい。」</p>

筆者は、死ぬ運命にあった病猫を助けてしまった。その猫はあまりに汚く醜かったため、それを見た人は勝手に筆者のボランティア精神を想像したという。しかし、筆者は、そうした単純な見方には否定的だ。一見すると無償の奉仕に見えるそこには、筆者と猫の間の「輻輳した契約」があったのだと言う。ここでは利他行動についてちょっと新しい見方を提示していると言えるだろう。また、敬虔なクリスチャンの話が、筆者自身の実体験とパラレルに述べられていることに注意したい。

設問解説

設問（一）

問題	「なにか悠久の安堵感のようなものに打たれる」（傍線部ア）とあるが、どう いうことか、説明せよ。
解答例	筆者は、南房総の猫の決然とした親離れの姿から、連綿と続く野生の牢固な 営みを感じ取り、安心と感銘を覚えたということ。（57字）
思考の目次	<p>構成フェーズ</p> <ul style="list-style-type: none">・ 設問文読解／傍線部読解 <p>読解フェーズ</p> <ul style="list-style-type: none">・ 「なにか悠久の安堵感のようなもの」とは何か？・ 単なる「悠久の安堵感」ではなく「なにか悠久の安堵感のようなもの」と表現されているのはなぜか？・ 「打たれる」にはどういうニュアンスがあるか？

構成フェーズ

設問文は「どういうことか、説明せよ」という通常の形式である。傍線部は「なにか悠久の安堵感のようなものに打たれる」である。傍線部もまた特別な点は無いので、基本的な言い換え型の問題だと見て良いだろう。傍線部は大きく二つのポイントに分かれる。前半の「なにか悠久の安堵感のようなもの」と、後半部の「打たれる」である。前者は、具体的に何を指しているのかを解明することが問題となりそう。ただし、「なにか～ようなもの」と表現されていることから、「なにか悠久の安堵感のようなもの」が指しているものは、「悠久の安堵感」という言葉が指しうる内容としては一風変わったものである可能性があることに注意しよう。後半部の「打たれる」という表現は、安堵感に対して使う動詞としては異質である。普通は「安堵感を覚える」であろう。よって、このニュアンスも考察する必要がある。以上をまとめると、読解フェーズで考えるべき問いは以下の三つだ。

1. 「なにか悠久の安堵感のようなもの」とは何か？
2. 単なる「悠久の安堵感」ではなく「なにか悠久の安堵感のようなもの」と表現されているのはなぜか？

3. 「打たれる」にはどういうニュアンスがあるか？

読解フェーズ

まず「なにか悠久の安堵感のようなもの」の正体について考えていく。より論点を絞り、まず「安堵」の意味について考えてみたい。文脈から、南房総の山中の猫に関係があることは明白だ。では、その猫のどのような点に「安堵」したのだろうか？まず傍線部の直前に書かれていることを確認する。傍線部は「こころ寂しい半面」から繋がっている。では「こころ寂しさ」と「なにか悠久の安堵感のようなもの」の両方を喚起したものは何かと言えば、それはそのさらに前にある「そのありかを想像」したことだろう。「そのありか」とは親離れした子猫の行方のことであり、さらにその前の第三段落の最後に「帰ってくることはまずない」とあることから、筆者は親離れした子猫が決して帰って来ないことに「こころ寂しさ」と「安堵感」を覚えたのであることがわかる。

では、なぜ帰って来ないことに安堵するのか？逆に言えば、帰ってきたら何がいけないのか？それは、さらにその前を追えばわかる。第三段落には子猫の決心が描かれている。つまり、子猫が帰ってきたしまうことは、子猫の決心の揺らぎを表すからこそ、逆に筆者は帰って来ないことに安堵したのだ。これは、傍線部の直後に「見事な親離れである」とあることとも繋がるだろう。その決心の強さが「見事」とされているのがわかる。

これで「安堵」の意味は理解できた。では、「悠久」とはどういうことか？筆者の体験は高々「十数年」に渡るものであるので、「悠久」と表現するには大げさすぎる。よって、「なにか悠久の安堵感のようなもの」とは、個別具体の体験に対する感覚ではなく、より時間的に幅のある何かに対する感覚であることが窺えるだろう。時間的な幅のある概念を本文から探していくと、第二段落の最初の文に「野生の掟や本能」とあるのが発見できる。これが「悠久の安堵感」の対象だとすると、筆者は南房総の山中の子猫たちの親離れに、悠久の「野生の掟や本能」を垣間見ており、その不変性と揺るぎなさに「悠久の安堵感」を覚えているのだということになる。これは本文の趣旨と全く齟齬がなく、妥当な読みであると言えるだろう。

では次に「打たれる」について考えてみる。「打たれる」のは「胸」や「心」であり、よって感動を示すと考えるのが自然だ。これは本読解に当てはまるだろうか？先ほどの議論でも出てきた、「見事な親離れ」という箇所を思い出そう。筆者は、猫の親離れを人間と比較して、「見事」と形容していた。よって、猫の親離れに感動を覚えているのだというのは妥当な読みである。「打たれる」は感動の意味として考えよう。

最後に、単なる「悠久の安堵感」ではなく「なにか悠久の安堵感のようなもの」と表現されていることについても検討しておきたい。これまでの議論で、この理由として考えられることは二つある。第一は、筆者が猫の親離れの個別具体の観察から（ある種勝手に）「野生の掟や本能」を感じ取っている点である。第二に、「安堵」と言いながら、実はそこに感動が含まれている点

である。よって、「なにか～のようなもの」という言い回しは、これらのことを反映していると考えて良いだろう。

以上のことをまとめると、以下のような答案が書ける。すでに十分簡潔であるので、表現フェーズは省略する。

筆者は、南房総の猫の決然とした親離れの姿から、連綿と続く野生の牢固な営みを感じ取り、安心と感銘を覚えたということ。(57字)

他社解答例の講評

赤本

答案				
Schip採点	3点	読解点：2点	構成点：1点	表現点：0点

「打たれた」のニュアンスが無い。構成点が減点される。なお細かいことではあるが、「～～帯びる姿に、～～自然の摂理に信頼感と安心感を覚えた」という箇所は、助詞「に」の連続が日本語として拙いので、後者を「自然の摂理への」に変えた方が良いのではなかろうか。

東大の現代文25カ年

答案				
Schip採点	5点	読解点：2点	構成点：2点	表現点：1点

簡潔で良い答案である。ただ、減点対象とは言えないが、「親子の決別の姿」としてしまうと、それが意図せぬ悲劇のように聞こえてしまう点だけは若干気がかりである。

駿台（青本）

答案				
Schip採点	2点	読解点：1点	構成点：2点	表現点：-1点

「人間が見失った自然の摂理に従う生命の爽やかな厳しさ」と言ってしまうのは、人間の子育てもまた本来は自然の摂理に従うべきだと言っているように聞こえてしまうが、そういう主張は本文から見受けられない。筆者は猫の子育てを「見事」で人間も見習うべきだとはしているかも

しれないが、ここまでは言っていないだろう。読解点を1点減点とした。表現の面では、「自然の摂理」は過度な抽象化ではないか？「野生」と「自然」は意味が異なるだろう。また、「爽やかな厳しさ」は意味が不明である。良い言い換えとは言えない。表現点も減点される。

河合塾

答案				
Schip採点	4点	読解点：2点	構成点：2点	表現点：0点

内容は全く問題ない。しかし、少し冗長であるのが惜しいところだった。

東進ハイスクール

答案				
Schip採点	3点	読解点：2点	構成点：2点	表現点：-1点

内容は良いが長すぎる。表現点は減点せざるをえない。これでは余りに小さな字で解答欄に書き込むことになる。人に見せるための答案とは言えないだろう。

代々木ゼミナール

答案				
Schip採点	2点	読解点：2点	構成点：1点	表現点：-1点

「打たれた」のニュアンス、つまり感動について述べられていない。構成点が減点される。また、駿台の答案と同じく「自然の摂理」は過度な抽象化である。表現点も減点された。

スタディサプリ（制作：旺文社）

答案				
Schip採点	2点	読解点：2点	構成点：1点	表現点：-1点

「悠久」のニュアンス、つまり歴史性や不変性について言及が無い。構成点が減点される。また、駿台や代々木ゼミナールの答案と同じく「自然の摂理」は過度な抽象化である。表現点が減点される。

設問（二）

問題	「死ぬべき猫を生かしてしまったのだ」（傍線部イ）とあるが、どういうことか、説明せよ。
解答例	野生の掟によれば死ぬ宿命にあった病猫を、間接的な罪悪感から思わず救命してしまい、野良猫の世界に人為を持ち込んでしまったということ。（65字）
思考の目次	<p>構成フェーズ</p> <ul style="list-style-type: none">・ 設問文読解／傍線部読解 <p>読解フェーズ</p> <ul style="list-style-type: none">・ 「死ぬべき」とはどういうことか？「死ぬべき猫」とは何のことを指しているのか？・ 「生かしてしまった」とはどういうことか？・ なぜ「生かしてしまった」のか？ <p>表現フェーズ</p> <ul style="list-style-type: none">・ 言い換え・ 非重要語の削除

構成フェーズ

設問文は「どういうことか、説明せよ」という一般的な形式だ。傍線部からは二つのポイントが想定できそうだ。第一に「死ぬべき」とはどういうことか？「死ぬべき猫」とは何のことを指しているのか？助動詞の「べし」には義務や推量など様々な意味があるので、注意して読解したい。第二に「生かしてしまった」とはどういうことか？（以下、本問の解答解説内の傍点は引用者によるものとする。）「てしまった」ということは、筆者にとって生かしたことがは失敗であったことがわかる。そして、それについて説明しなければならないのだから、可能な限り筆者がなぜそうしてしまったのかも述べる必要があるだろう。

よって、読解フェーズで取り組むべきは以下の問いである。

1. 「死ぬべき」とはどういうことか？「死ぬべき猫」とは何のことを指しているのか？
2. 「生かしてしまった」とはどういうことか？
3. なぜ筆者は「生かしてしまった」のか？

読解フェーズ

まず「死ぬべき」について考えてみよう。第十段落に「それも宿命であり、野生の掟に従ってこの猫は短い寿命を与えられている」とある。つまり、「死ぬべき」とは野生の掟によれば死ぬ宿命にあったという意味であることがわかる。そして、当然のことだが、「死ぬべき猫」とは筆者の眼前で倒れた野良猫のことである。

次に、「生かしてしまった」について考えよう。なぜ「死ぬべき猫」を生かしたことは失敗であったのだろうか？まず、当たり前だが、「死ぬべき」であったからだというのが一つの理由である。「死ぬべき」とは野生の掟によれば死ぬ宿命にあったという意味であるのだから、野生の掟に反してしまったという点で生かしたことは失敗であったことがわかる。

ここでさらに問いが立てられる。なぜ筆者が野生の掟に従わなければいけないのか？その手がかりは、傍線部の直前だ。「私は再びへまをした」とある。再びということは、同様の失敗は以前にもあったということだ。この文は「ところが」という接続詞で前の第五段落と接続しているので、第五段落の内容も確認しよう。以前の失敗が「ある年の春不意に姿を消した」猫についての話であることは自明であろう。そしてそれがなぜ失敗であったか、段落の最後に次のようにある。「猫の世界に介入することによってそのような猫の生き方のシステムが変形していくことがあるとすれば、それは避けなければならない」のである。そして「そのような猫の生き方のシステム」とは、南房総の野良猫が「自然と一体化したかたちで彼らの世界で自立している」ということである。つまり、筆者が野生の掟に反して猫を助けたことは、「猫の世界に介入」しそれを「変形」させることであり、これによってこの「自立」が崩れてしまうのである。

ただ、「てしまった」の意味をこれだけだと思ってはいけない。なぜなら、第五段落に「それは避けなければならない」とあるように、筆者は猫の世界への介入が好ましくないことを重々承知していた。よって、この「てしまった」には後悔の意味も含まれているだろう。これについての手がかりとしては、「つい家に招き入れてしまった」（第十三段落）、「つい同情してしまったのが運の尽き」（第十四段落）という文がある。良くないことだとわかりながら、魔が差してしまったのだ。では、なぜそんな魔が差してしまったのか？第十二段落の最後に「間接的にその苦しみを私が与えたような気持ちに陥った。」とあるのに注目しよう。筆者に一種の罪の意識があったことが伺える。

以上のことを踏まえると以下のような答案になる。

野生の掟によればもう寿命で死ぬ宿命にあった病猫を、間接的な罪悪感から思わず救命してしまい、野良猫の生のシステムという自然界に介入しその自立性を侵してしまったということ。(84字)

表現フェーズ

このままでは少し冗長なので、言い換えを行う。

野生の掟によればもう寿命で死ぬ宿命にあった病猫を、間接的な罪悪感から思わず救命してしまい、野良猫の世界に人為を持ち込んでしまったということ。(71字)

まだ少し冗長なので、重要度の低い語を削っていこう。「寿命という宿命によれば死ぬはず」「人為を持ち込んで自律性を侵す」などは、より簡潔にしても意味は保存されそう。

野生の掟によれば死ぬ宿命にあった病猫を、間接的な罪悪感から思わず救命してしまい、野良猫の世界に人為を持ち込んでしまったということ。(65字)

他社解答例の講評

赤本

答案

Schip採点 4点 読解点：2点 構成点：1点 表現点：1点

簡潔さは評価できるが、「死ぬべき」について説明不足である。「寿命」「死ぬ宿命」などのキーワードが必要であろう。構成点が減点される。また、これは減点にはならないが、傍線部が「ところが私は再びへまをした。」から繋がっていることを考えると、「自然への介入」こそが傍線部の主旨であり、よってそれを答案の最後に持ってきた方がより良い解答になると思われる。

東大の現代文25カ年

答案

Schip採点 3点 読解点：1点 構成点：2点 表現点：0点

「人為的に延命させた」とすると、主旨が個別具体の話に聞こえがちだ。傍線部の前文脈を考慮して、「猫の世界への介入」にまで抽象化する必要がある。また、本文には「間接的にその苦しみを与えたような気持ち」とあるので、「自分の責任でもある」というのは言い過ぎである。以上の点で、読解点が減点される。表現の面では、冒頭の「病気持ちで短命が自然の定め猫」は日本語として不自然である。表現点は加算されない。

駿台（青本）

答案				
Schip採点	3点	読解点：2点	構成点：1点	表現点：0点

「死ぬべき」について説明不足である。構成点が減点される。また「生をゆがめてしまった」は曖昧すぎる表現である。「自立性を侵した」や「人為を持ち込んだ」などの明確な表現をすべきである。この点で、表現点は加算されない。

河合塾

答案				
Schip採点	4点	読解点：2点	構成点：2点	表現点：0点

内容は正しいが、少し冗長すぎる。表現点は加算されない。また、減点とはならないが、赤本の答案と同様、「猫の世界に介入」の部分を答案の最後に持ってきた方がより良い解答になると思われる。

東進ハイスクール

答案				
Schip採点	3点	読解点：2点	構成点：2点	表現点：-1点

内容は正しい。ただ、前半部の「病んで短命だったはずの～生き長らえさせ」の箇所は、文節がわかりにくく主語も無いので大変に読みづらい文章だ。全体としても冗長である。これは表現の面で減点されてしかるべきであろう。明瞭な日本語を書くことは、人に読んでもらう文章を書く上で必須の要素である。

答案				
Schip採点	4点	読解点：1点	構成点：2点	表現点：1点

東大の現代文25カ年の答案と同様、「思い込む」というのは言い過ぎである。筆者は、罪悪感を確認したわけではない。この点で読解点が減点される。

スタディサプリ（制作：旺文社）

答案				
Schip採点	4点	読解点：2点	構成点：2点	表現点：0点

簡潔な答案であるが、「罪悪感」については、「間接的」という要素が不足している。それゆえ、表現点は加算されなかった。

設問（三）

問題	「私はそれはそういうことではない、と薄々感じはじめていた」（傍線部ウ）とあるが、どういうことか、説明せよ。
解答例	病猫は自発的で一方向的な奉仕の対象ではなく、むしろ慈悲心を引き出し充足感を与え返す存在であったことを筆者は勘付き始めたということ。（65字）

構成フェーズ

- ・ 設問文読解／傍線部読解

読解フェーズ

- ・ 「それ」とは何か？
- ・ 「そういうこと」とは何か？
- ・ 「そういうこと」ではなく何なのか？

思考の目次

表現フェーズ

- ・

構成フェーズ

設問文は「どういうことか、説明せよ」という通常の形式だ。傍線部のポイントは三つある。第一に「それ」と「そういうこと」という二つの指示語の指示内容を確認しなければならない。第二に、「Aではない」ことを説明するためには、「AではなくBである」ことまで説明することが望ましいということである。日常会話で「それって昨日買ったの？」と聞かれたら、「いいや、もっと昔に買ったよ」とまで答えるのが自然であろう。それと同じことである。第三に、「薄々感じはじめていた」のニュアンスにも気を配らなければならない。よって、読解フェーズで取り組むべき問いは以下の通りだ。

1. 「それ」とは何か？
2. 「そういうこと」とは何か？
3. 「そういうこと」ではなく何なのか？

読解フェーズ

「そういうこと」から考えた方がわかりやすい。「そういうこと」は、傍線部の直前の「感心の中にはときに私のボランティア精神に対する共感の意味も含まれている」を指している。よって、「それ」とは、傍線部の直前の文の「こんなもの（＝病猫）の面倒をみている」となる。よって、「それはそういうことでない」とは、筆者が醜い病猫を助けているのは来訪者たちが勝手に想像して共感しているような「ボランティア精神」によるものではないという意味だと言える。

では、「そういうことでない」ならば、何なのか？傍線部に隣接している箇所にはヒントが見受けられないので、傍線部の次の段落から流れを見ていこう。傍線部の次の第十五段落では、「完璧な無償」についての説明がある。「完璧な無償」とは先ほどの来訪者の共感の中で出てきた「ボ

ランティア精神」のことであるようだ。筆者によれば、「およそ生物というものはエゴイズムに支えられて生きている」（つまり結局みんな最後は自分が可愛い）ので、「完璧な無償というものはなかなか存在しがたい」としている。「完璧な無償」は否定された。よって、ここは傍線部と同様の内容であると言える。ただ、なぜ否定されるのかの理由はわからない。続きを見ていこう。

第十六段落を見ると、別のエピソードが書かれている。「彼はほとんど無償で自分の命を他者に捧げたわけだが、敬虔なクリスチャンである彼が、彼が習ったきた教義の中に濃厚にある他者のために犠牲心を払うということによる「冥利」にまったく触れなかったとは考えにくい」。「冥利」というのは新しい概念だ。

「冥利」に注目しつつ、次の第十七段落を見てみると、このクリスチャンの例が、筆者と病猫の関係性と類似していることが示されている。そして段落の最後にはこうあるのだ。「誰が見ても汚く臭いという生き物が、他のどの生き物よりも可愛いと思いはじめるのは、その二者の関係の中にそういった輻輳した契約が結ばれるからである」。どうやら、「そうじゃないなら、何なの？」という疑問の答えは「輻輳した契約」であるようだ。

では「輻輳」とはどういうことか？本文には「猫の存在によって人間であるなら誰の中にも眠っている慈悲の気持ちが引き出された」、そして「その猫は自らが病むという犠牲を払って、他者に慈悲の心を与えてくれた」とある。先ほど「完璧な無償」が否定されていたことにもこれで納得だ。慈悲心は、慈悲を与える者が自発的に働かせるのではなく、あくまで慈悲を与えられる側が、慈悲を与える側から引き出すことで初めて発現するものなのだ。

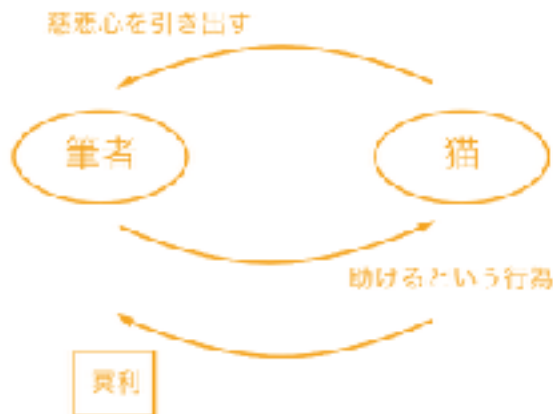
ただ、これだけで「輻輳」と言えるだろうか？「輻輳」とは、「色々な物事が集中している」という意味である。ここで、先ほどのクリスチャンのエピソードを思い出したい。クリスチャンの自己犠牲の裏には「冥利」があったのではないかというのが筆者の読みだ。クリスチャンのエピソードと筆者と病猫の話は類似の関係にあるのだから、病猫を助けることにも「冥利」があったと考えるが妥当だろう。病猫は「慈悲の心を与えてくれた」のである。病猫の世話は、どこかで筆者自身の満足にもなっていたのだろう。まとめると、以下の構図になる。

1. 病猫が、筆者の中の慈悲心を引き出し、
2. 筆者が、世話という奉仕をして、
3. 筆者は、そうした慈悲心の発揮を通じて「冥利」を得ている。

この交互に関連する構図こそが、「輻輳した」関係なのだ。

これと逆に考えれば、「完璧な無償」とは、一方行的な関係であると言えるだろう。本来的に慈悲心に溢れた人が、見返りを全く得ないまま、自発的で一方的に何者かに奉仕をするという関係である。「輻輳した契約」と「完璧な無償」を図で比較してみた。

「輻輳した契約」



「完璧な無償」



そして、これらを踏まえてそのまま答案の形にすると、以下のようになる。

筆者が病猫の世話をすることは、自発的に慈悲心を発揮し一方向的で無償の奉仕をするという関係の上に成り立っていたのではなく、実は、むしろ、病猫が筆者の慈悲心を引き出し、それを働かせる充足感を与えてあげていたという互恵的な連関の上にあったのだということを、筆者は勘付き始めたということ。（140字）

表現フェーズ

かなり冗長になってしまった。これは大胆な改革が必要だ。「○○という関係」という構文が何回も出てくるのが一つの元凶である。そこで、主語の設定を変えてみたいと思う。関係性の登場人物は猫と筆者であるので、ここでは猫という存在を中心に据えてみたい。

病猫は、筆者が自発的に慈悲心を働かせ、一方向的で無償の奉仕をする対象なのではなく、実は、むしろ、筆者の慈悲心を引き出し、それを働かせる充足感を与えてあげていたのだと、筆者は勘付き始めたということ。（97字）

あとは、重要度の低い語を削っていき、文章を調整する。これで問題なさそうだ。

病猫は、筆者が自発的に慈悲心を働かせ、一方向的で無償の奉仕をする対象なのではなく、実は、むしろ、筆者の慈悲心を引き出し、それを働かせる充足感を与えてあげていたのだと、筆者は勘付き始めたということ。

↓

病猫は自発的で一方向的な奉仕の対象ではなく、むしろ慈悲心を引き出し充足感を与え返す存在であったことを筆者は勘付き始めたということ。(65字)

他社解答例の講評

赤本

答案				
Schip採点	3点	読解点：1点	構成点：2点	表現点：0点

「冥利」について触れられていない。読解点を減点した。

東大の現代文25カ年

答案				
Schip採点	2点	読解点：0点	構成点：2点	表現点：0点

「冥利」について触れられていない。また、「無償」のニュアンスも表現されていない。読解点は加点できない。

駿台（青本）

答案				
Schip採点	3点	読解点：1点	構成点：2点	表現点：0点

「冥利」について触れられていない。読解点を減点した。

河合塾

答案				
Schip採点	4点	読解点：2点	構成点：2点	表現点：0点

内容は概ね正しい。ただ、減点はされない程度かもしれないが、「無償」のニュアンスと、双方向性のニュアンスが弱い。

東進ハイスクール

答案				
Schip採点	3点	読解点：1点	構成点：2点	表現点：0点

「冥利」について触れられていない。読解点の減点である。

代々木ゼミナール

答案				
Schip採点	2点	読解点：0点	構成点：2点	表現点：0点

「冥利」について触れられていない。また、「という側面もある」というのは、筆者はそうであると言い切っていることを考えていると、誤読である。以上の二点より、読解点が二点減点される。

スタディサプリ（制作：旺文社）

答案				
Schip採点	2点	読解点：0点	構成点：2点	表現点：0点

「冥利」について触れられていない。また、「無償」のニュアンスも表現されていない。それゆえ、読解点は加点できない。

設問（四）

問題	「不意にその臭いのことが愛しく思い出されるから不思議なものである」（傍線部エ）とあるが、どういうことか、説明せよ。
解答例	誰もが不快に思う臭気であっても、筆者にとっては病猫との代替不可能な関係の象徴であるので、その不在には思わず愛惜が喚起されるということ。 (67字)

構成フェーズ

- ・ なぜ不思議なのか？
- ・ 着地をどこに持ってくるか？設問の意図は何だろうか？

読解フェーズ

思考の目次

- ・ 「輻輳した契約」を再考する。
- ・ なぜ「輻輳した契約」が愛しさにつながるのか？

表現フェーズ

- ・ 文の主語を統一して簡潔にする。
- ・ 「不意に」のニュアンスの足す。

構成フェーズ

設問文は「どういうことか、説明せよ」という通常の形式である。傍線部の特徴は、傍線部の間に「から」という接続助詞が挟まっている点である。よって、傍線部は二つの節に分かれていると言える。前半が「不意にその臭いのことが愛しく思い出される」こと、後半が「不思議なものである」ことである。そして、前者が後者の理由であるという関係にある。

前者の「その臭い」が病猫の臭いであることは自明であろう。よって、前者の具体的な内容はすぐにわかる（ただし、それがどういうことか、という問いについてはより深く考える必要はある）。そして後者についてだが、まず「何が不思議なのか？」という問いが浮かぶのが自然である。しかし、これは読解フェーズに越境してしまう内容だが、本文の中から、明確にこれといった要素は発見することができない。よって、非常に一般的に「（人間の心は）不思議なものである」というような意味なのだと推論するのが妥当だ。

従って、筆者は、「不意にその臭い（＝病猫の臭い）のことが愛しく思い出される」という体験を通じて、その背景にある人間の心の動きを「不思議なものである」と捉えているというのが傍線部の正体だ。よって、読解フェーズで検討する問いは以下の通りである。

1. 「不意にその臭い（＝病猫の臭い）のことが愛しく思い出される」とはどういうことか？ どのような心の動きがあるのか？
2. なぜ「不意にその臭い（＝病猫の臭い）のことが愛しく思い出される」ような人間の心の動きは「不思議」なのか（どんな一般通念や前提と矛盾があるのか）？

読解フェーズ

「不意にその臭い（＝病猫の臭い）のことが愛しく思い出される」とはどういうことか？そこにどんな心の動きがあるのか？第十七段落の最後ではこう述べられていた。「誰が見ても汚く臭いという生き物が、他のどの生き物よりも可愛いと思いはじめるのは、その二者の関係の中にそういった輻輳した契約が結ばれるからである」。だとすれば、また新たな問いを提起すべきであろう。なぜ「輻輳した契約」があると愛しさを感じるのだろうか？「輻輳した契約」という言葉をもう一步深い目線で見つめてみる。「輻輳」という言葉の真意については設問(三)で検討したが、「契約」という言葉についてはまだだ。なぜ「輻輳した関係」と表現されなかったのだろうか？「契約」という言葉の意味は「複数の主体間の意思の合意」である。「関係」という言葉よりその当事者の主体性が強調されていると言えるだろう。「関係」だけなら、相手は誰でも良いかもしれない。誰にしも「同級生」が沢山いて、「同僚」も沢山いるし、「仕事相手」も沢山いる。しかし「契約」となるとそうはいかない。相手が、そしておそらく相手にとっての自分も、代替不可能な存在でなければ、「契約」は結べないだろう。まさにあの病猫が筆者の慈悲心を引き出し、まさにその筆者という人間が慈悲を施すという構図は、これまで見てきた通りである。もう今となっては、筆者の世話する病猫はあの病猫でなくてはならないのだ。「死ぬと同時に」消えた臭気は、そういった関係の象徴と言えるだろう。病猫は二度と帰ってこないが、病猫が代替不可能な存在であるからこそ、その猫との関係性自体もまた、もう二度と帰ってこない。よって、まとめると、「不意にその臭い（＝病猫の臭い）のことが愛しく思い出される」とは「病猫の臭いは、筆者にとって病猫との代替不可能な関係の象徴であったので、その臭気が消えたことで、筆者の心には思わず愛惜の念が湧いてきたということ」と説明可能だ。

さて、ではなぜそのような人間の心の動きは「不思議」なのか？「不思議」であるということは、何らかの一般通念や前提と矛盾があるということだ。これまでの議論ができている人には自明と言っても差し支えないだろうが、その手がかりは傍線部の直前にある。病猫の臭いは、「誰もが不快だと思うその臭気」なのだ。この逆説性こそが不思議さの核心だ。筆者の臭いに対する代替不可能な関係の象徴としての意味づけは、汚いとか、臭いとか、そういった一般的な価値観によっては壊されないのである。

これを踏まえて答案を書いてみよう。

誰もが不快に思う臭気であっても、筆者にとって病猫との代替不可能な関係の象徴であったので、その臭気が消えたことで、不思議と筆者の心に愛惜の念が湧いてきたということ。（81字）

表現フェーズ

「臭気」という言葉が繰り返されている点はちょっと気になる。「消える」という動詞を「不在」という名詞に書き換えて、主題を全文で統一しよう。

誰もが不快に思う臭気であっても、筆者にとっては病猫との代替不可能な関係の象徴であるので、その不在によって不思議と筆者の心に愛惜の念が湧いてきたということ。（77字）

せっかく「不在」という名詞を持ち出したので、後半は無生物主語の文章にしてみる。

誰もが不快に思う臭気であっても、筆者にとっては病猫との代替不可能な関係の象徴であるので、その不在に不思議と愛惜の念を喚起されたということ。（69字）

こうなってくると、「不思議と」という言葉も浮いてしまった。この回答の構文に合うように「不意に」「不思議なものである」のニュアンスを組み込みたい。「愛しい」という感情は、抗えぬまま自然に湧き起こってくるのであり、だからこそ自分ごとながら不思議に思えるのだ。

誰もが不快に思う臭気であっても、筆者にとっては病猫との代替不可能な関係の象徴であるので、その不在には思わず愛惜が喚起されるということ。（67字）

他社解答例の講評

赤本

答案				
Schip採点	0点	読解点：0点	構成点：0点	表現点：0点

全く当を得ていない答案だ。第一に、傍線部の焦点は臭いにあるのであり、病猫自体ではない。第二に、人間一般の心の動きとしての筆者の体験の考察が無い。個別具体の事実の描写に留まっている。この答案の中に評価できる点は無い。

東大の現代文25カ年

答案				
Schip採点	1点	読解点：1点	構成点：0点	表現点：0点

人間一般の心の動きの表れとして筆者の体験を説明する必要がある。「逆に」という一言では説明不足だ。構成点は加点されない。また、仮に「慈悲心を与えてくれたから愛しく思える」という心理が不思議であるということを手を主張したいのであれば、それが回答の主旨になるのであるから、はっきりそう書くべきである。ただ、仮にそうはっきり表現できていたとしても、「慈悲心を与えてくれたから愛しく思えるのが人の心の不思議なところだ」というのは、「輻輳した契約」の意味の一側面を捕えているに過ぎない。以上の点から読解点も減点される。

駿台（青本）

答案				
Schip採点	2点	読解点：0点	構成点：2点	表現点：0点

人間一般の心の動きの表れとして筆者の体験を考察する形式は備えている。しかしその内容について、第十五段落の内容を踏まえて答案は書かれているが、傍線部直前の文脈を踏まえるとこの「不思議」さを説明するには「輻輳した契約」について精緻に検討する必要があるのであり、かつ「輻輳した契約」自体と第十五段落の内容を直接結びつける根拠は本文に乏しいので、この答案は要点を外していると言わざるを得ないだろう。よって、読解点は加点されない。

河合塾

答案				
Schip採点	0点	読解点：0点	構成点：0点	表現点：0点

人間と猫の関係性全体へ話を一般化する根拠は見当たらない。また、一般化するにしても、「汚く臭い病猫だからこそ愛着を強める」というのは一般的な感情の動きではないだろう。逆に筆者の具体的な体験の内容としても、ただ「汚く臭い」から病猫に愛着を持ったという話ではない。構成点と読解点はともに加点されない。

東進ハイスクール

答案				
Schip採点	2点	読解点：1点	構成点：2点	表現点：-1点

好意的に解釈すれば、内容は正しいと言える。だが表現の面に様々に問題がある。第一に、長すぎる。表現点の減点対象だ。第二に、この本文で言うところの「契約」は一般的な語義とは違う意味づけがあるので、ただ「契約関係」とだけ書いたのでは、説明として不十分だろう。第三に、「不快な臭気でもその猫の臭いゆえに」の箇所は、本文の文脈を踏まえて好意的に解釈しない限り意味不明である。「その臭気は、（一般的な感覚では）不快であるが、他にもないその猫の臭いであるがゆえに」ということを表現したいのだと思われるが、だとすればそう明確にすべきである。これでは読解が正しいのか答案から窺い知ることができない。あくまで好意的に解釈すれば正しい内容を述べているように見えるだけである。読解点の減点も免れないだろう。

答案							
Schip採点	1点	読解点：1点	構成点：0点	表現点：0点			

「東大の現代文25カ年」の答案と似ている。人間一般の心の動きの表れとして筆者の体験を考察する必要がある。構成点は加点されない。また、「慈悲心を引き出してくれたから愛しく思える」というのは、「輻輳した契約」の意味の一側面を捕えているに過ぎない。以上の点から読解点も減点される。

スタディサプリ（制作：旺文社）

答案							
Schip採点	2点	読解点：1点	構成点：1点	表現点：0点			

人間一般の心の動きの表れとして筆者の体験を考察する形式を備えかけているが、不思議であることを説明するのに「不可思議さを思った」では説明になっていない。構成点は減点される。また、内容については東大の現代文25カ年や代々木ゼミナールの答案と同様の問題点がある。「慈悲心を引き出してくれたから愛しく思える」というのは、「輻輳した契約」の意味の一側面を捕えているに過ぎない。読解点も減点される。

※他社解答例の採点結果（最高点は20点）

	赤本	25カ年	駿台 (青本)	河合塾	東進	代々木	SS
設問1	3点	5点	2点	4点	3点	2点	2点
設問2	4点	3点	3点	4点	3点	4点	4点
設問3	3点	2点	3点	4点	3点	2点	2点
設問4	0点	1点	2点	0点	2点	1点	2点
合計	10点	11点	10点	12点	11点	9点	10点
得点率 (%)	50%	55%	50%	60%	55%	45%	50%

引用文献・著作権表示

本PDFファイルの著作権及び著作者人格権は、全て任意団体Schipに帰属します。

無許可での本PDFファイルの複製と再配布は、これらを全て禁じます。

他社解答例の講評欄で言及している解答例は以下の出典より引用しております。

- ・ 「赤本」：『2017年版大学入試シリーズ東京大学（文科）』教学社編集部・編 2016年
- ・ 「東大の現代文25カ年」：『難関校過去問シリーズ 東大の現代文25カ年 [第8版]』桑原 聡・編著 2016年
- ・ 「青本」：『大学入試完全対策シリーズ 2017・駿台 東京大学 [文科] 前期日程(上) 2016～2012/5カ年』駿台予備学校・編 2016年
- ・ 「河合塾」：河合塾webサイト 大学入試解答速報 <http://kaisoku.kawai-juku.ac.jp/nyushi/honshi/15/t01.html>（閲覧日：2016年12月10日）
- ・ 「東進ハイスクール」：東進ハイスクールwebサイト 大学入試過去問データベース by 東進 <http://220.213.237.148/univsrch/ex/menu/index.html>（閲覧日：2016年12月10日）
- ・ 「代々木ゼミナール」：代々木ゼミナールwebサイト 2015年度大学入試問題と解答例 http://sokuho.yozemi.ac.jp/sokuho/mondaitokaitou/1/1265579_4420.html（閲覧日：2016年4月10日）
- ・ 「スタディサプリ（制作：旺文社）」：「スタディサプリ」アプリケーション内 大学入試過去問 東京大学 <https://studysapuri.jp/SC000073/kakomon/000000000000132501>（閲覧日：2016年12月10日）